コラム　地域循環共生圏

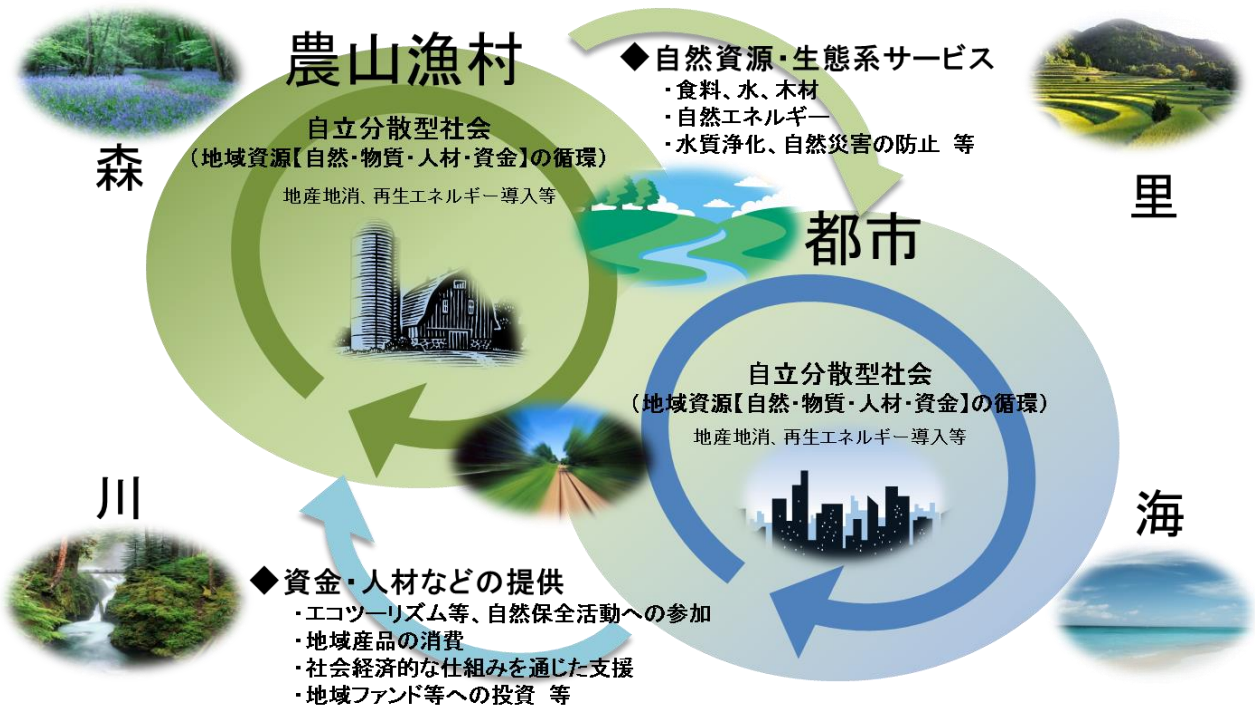
2018 年４月に閣議決定された「第五次環境基本計画」では、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）を掲げる「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」や「パリ協定」の採択など世界を巻き込む国際的な潮流や、複雑化する環境・経済・社会の課題を踏まえ、複数の課題の統合的な解決というＳＤＧｓの考え方も活用した「地域循環共生圏」を提唱しました。

「地域循環共生圏」とは、「地域循環圏」と「自然共生圏」の考え方を包含するもので、各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方です。

例えば、都市には、人材やお金、都市ならではの文化、都市の景観などの様々な「資源」があり、地方には、豊かな自然やそこから得られる自然のめぐみ、農山漁村の伝統文化や田園風景などの様々な「資源」があります。そのため、都市には、人とお金が集まりやすい一方で、地方には食料、水、木材といった資源やエネルギーが存在します。こうした人やお金、資源、エネルギーなどが循環することで、お互いに必要としているものを補い合い、支え合うことができます。

地方で作ったエネルギーを都市で使う、都市の住民が地方での自然保全活動に参加するなど、様々な形で都市と地方が支え合っていくことが重要になってきます。

地域循環共生圏の概念図



〇各地域がその特性を活かした強みを発揮

→地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成　*（地域循環圏）*

→地域の特性に応じて補完し、支え合う　*（自然共生圏）*

資料：環境省